

1. 調査団の「人」の動き

- (1)遠藤宣雄氏(上智大学客員研究員)はこれまで UNV として農村活性化のアドバイザーとして活躍してこられたが、2002年5月に任務を終え、帰国された。引き続きカンボジア農村活性化プログラムを UNV としてベトナムで実施すべく待命中である。
- (2)三輪悟氏は上智大学共同研究員として任期を延長し、引き続きワット西参道の修復工事の現場責任者として継続することとなった。
- (3)荒樋久雄氏は UNV として研修所での任務を 2002年3月に終えられた。現在ベルギーのルーヴァン大学へ博士学位請求論文を執筆中である。

2. 頂査団の研修生の動き

- (1) Tin Tina 君は文部省国費外国人留学生として 2001年10月から上智大学大学院地域研究専攻研究生として来日した。2002年3月に同地域研究専攻博士前期課程に合格し、大学院1年生となった。
- (2) Som Visoth 君は神奈川県海外技術研修員として 2001年5月に来日した。現在日本語を勉強し、博物館学、陳列方法論を県内で実習していたが、2002年3月に帰国し、現在ブノンペン国立博物館で実習中である。
- (3) Nuon Mony 君は外務省長期青年招聴プログラムにより 2001年6月に来日し、日本語を勉強した後9月から徳島県埋蔵文化財センターで実習をし、2002年3月にした。現在研修所で研究中。

3. カンボジア政府アプサラの活動について

アプサラ機構総裁 Bun Narith 閣下はとてもエネルギッシュに活動されている。アンコール遺跡内に9ヶ所新しくトイレを新設し、環境とマネジメントの面でも ISO14001 の申請に向けて頑張っておられる。以下は副総裁のメンバーである。筆頭副総裁 Soeung Kong 氏(シムリアップ事務局担当)、Ros Borath 氏(遺跡・考古担当)、Tom Hen 氏(都市計画担当)、Ouk Someth 氏(観光担当)、Tam Sam Boun 氏(文化経済担当)、それに加えて同格の立場で Ang Chouleang 氏がクメール文化担当部長である。

4. アンコール・ワット清掃緑陰講座について

第4回緑陰講座は2002年8月26日から31日まで7日間にわたり上智大学アンコール研修所において開催されることとなった。参加者は25名の予定、丸井氏が担当。

5. 大学院地域研究専攻のフィールドワーク学科目開講について

開講日時：2002年8月19日(月)～28日(水)(10日間)、指導教員：石澤良昭

講義シラバス：

- (1) 文化財研究から文化遺産学へ - アンコール遺跡を考える意味
- (2) 東南アジアの文化遺産は民族固有の財産
- (3) 遺産研究は文化遺産に塗布されたメッセージの解読
- (4) 事例研究 アンコール遺跡を解明する(1) 中国史料から
- (5) 事例研究 アンコール遺跡を解明する(2) 碑刻文史料から
- (6) 事例研究 アンコール遺跡を解明する(3) 建築修復考察から
- (7) 事例研究 アンコール遺跡を解明する(4) 美術様式論から
- (8) 事例研究 アンコール遺跡を解明する(5) 水利都市論から
- (9) 事例研究 アンコール遺跡を解明する(6) 王道流通論から
- (10) 事例研究 アンコール遺跡を解明する(7) 鉄の生産考察から

6. 雑誌および出版活動

- (1) 「廃仏274体が明かすアンコール王朝の宗教闘争」『芸術新潮』2002年2月号
- (2) 「アンコール・ワットの修復・保存に挑む」『蜚雪時代』2002年5月号

- (3) 「アンコール遺跡一発見された廃仏が語るもの - カンボジア史の通説を覆す発掘成果」『旅』6月号、JTB出版部
- (4) 石澤良昭・大村次郷共著『アンコールからのメッセージ』山川出版社、2002年6月
- (5) アンリ・ムオ著、大岩誠訳『インドシナ王国遍歴記アンコール・ワット発見』(中公文庫)中央公論社、2002年2月

(文責 石澤良昭)